

これまでの運営委員の主な意見について

令和3年度保険料率に関するこれまでの運営委員の主な意見

1. 平均保険料率

- コロナ禍という状況であるが、高齢化の進行、現役世代の減少という構造的な課題は変わっていない。健全な財政基盤を確保していくことが基本であり、10%維持に賛成である。一方で準備金残高が積みあがっており、これまで以上に丁寧な説明が必要である。
- 新型コロナウイルス感染症で先行き不透明であり、景気回復には時間がかかることが見込まれる。今後、数年は厳しい財政状況になることが見込まれるため、令和3年度の保険料率を10%維持することが適当であると考え。なお、協会けんぽには、国庫補助率を上限20%に引き上げるよう国へ強く要望していただきたい。
- 評議会の意見の中でコロナの影響で一時的に保険料率を下げてはどうかという意見も見受けられたが、保険料の納付猶予で対応されていると考える。コロナで先行き不透明な中で、保険料率を変更することはリスクが高いと考える。
- 現状の保険料率の維持を支持したい。多くの支部で現状の10%維持を支持していると思われる。新型コロナの影響が今後さらにでてくることを考えると将来的な引き上げ幅を緩和するという効果を視野に入れて10%維持を支持したい。一方で、事務局が出された資料の準備金の予測値と実際の値と乖離が出た場合は、しっかりと検証し、次年度に還元するなど新たな対応を議論する必要があるのではないかと。
- 現状の10%維持に賛成である。資料から保険の財政が赤字構造であることが読み取れるため、コロナの影響で保険料収入が増加しない中、赤字構造を改善するには支出を減らす必要がある。マイナンバーカード等を活用して、医療費削減につながる提言を国に対して行ってほしい。
- 保険料を10%に据え置くことはコロナ禍で苦しんでいる事業主や従業員の理解を得ることは難しい。コロナ禍の中で、保険料の引き下げや国庫負担の増額に言及した支部評議会の意見も多くあるため、本部としても十分にこの内容を検証して運営委員会に来年度の保険料率に係る議論を諮るべきである。保険者として収支の均衡のみを見るのではなく、加入者の持続的な発展につながるような、加入者への支援策を積極的に国へ要望していただきたい。

2. 保険料率の変更時期

- 令和3年4月納付分から変更するという点について、特段の異論はなし。

令和3年度保険料率について(支部評議会における主な意見)

令和2年10月から11月に開催した各支部の評議会での意見については、理事長の現時点における考え(新型コロナウイルス感染症拡大による協会財政に対する影響はあると考えられるが、基本的には中長期的な視点で保険料率を考えていくこと)を評議会で説明した上で、特段の意見があれば提出していただくこととしている。

意見の提出状況並びに平均保険料率に対しての意見の概要は以下のとおり。

意見の提出なし	6支部(13支部)	※()は昨年の支部数
意見の提出あり	41支部(34支部)	
① 平均保険料率10%を維持するべきという支部	31支部(21支部)	
② ①と③の両方の意見のある支部	5支部(7支部)	
③ 引き下げるべきという支部	2支部(2支部)	
④ その他(平均保険料率に対しての明確な意見なし)	3支部(4支部)	

※ 保険料率の変更時期については、4月納付分(3月分)以外の意見はほぼなし。

令和3年度保険料率に関する評議会での意見（徳島支部）

令和2年10月27日に開催した評議会での議論を踏まえ、次の意見について報告します。

【評議会意見】

- 平均保険料率については10%維持。
- 保険料率変更の時期は例年通り4月納付分(3月分)からでよい。

【学識経験者】

- 積立準備金をどこまで積み上げていくのかという疑問を持っていったが、今回のコロナ禍の下、2025年問題、高額医薬品の保険適用等、医療費の増加が見込まれており、保険料の上げ下げについて、直ちに議論できる状況ではない。今後の環境の変化も踏まえ、中長期的に考えていかざるを得ないのではないか。

【事業主代表】

- 事業主としては、保険料率が下がるのに越したことはない。しかし、現在の厳しい社会情勢を考えれば、下げるのは難しい。また、将来の世代に負担をかけないためにも、平均保険料率10%をできる限り長く維持していく必要がある。
 - コロナの影響がいつまで続くのか見通しが立たない中で、中小企業は政府の給付金、助成金の交付等で従業員の雇用を維持している。コロナの影響が長引くようであれば、企業の存続、雇用の維持も厳しくなってくることを危惧している。健康保険制度を安定的に維持していくため、平均保険料率は、中長期的視点で考えるというスタンスは理解するが、中小企業の収益が少ない中で、現在の社会保険料の負担は、収益を大きく圧迫している。
- 事業主のこうした厳しい現状も考慮し、安定した健康保険制度の在り方について、議論を深めていく必要がある。

【被保険者代表】

- 被保険者として、保険料率を下げしてほしい気持ちはあるが、今回のコロナケースの収支予想を見て、大変厳しい状況であることは理解した。現在の平均保険料率をできる限り長く維持できるよう努力してほしい。

